

# 妊娠中の方も、授乳中の方も、 新型コロナウイルス（メッセンジャーRNA）ワクチン接種を 推奨します。



妊娠中、特に妊娠後期は  
重症化リスクであることが  
分かってきました。



自分のため・赤ちゃんのために、ワクチン接種をしましょう。

妊婦の感染経路の約8割は、  
夫やパートナーからです。



お母さんと  
赤ちゃんのために、  
ワクチン接種を  
しましょう。

接種はいつでも可能です。

非妊婦と副反応に差はありません。

発熱・頭痛時は早めにアセトアミノフェンを内服しましょう。

副反応の有無に関わらず、妊娠の異常（流産・早産・その他）の頻度は、  
ワクチンを打たなかった場合と同じであると報告されています。



手を洗おう



うがいをしよう



マスクをしよう



消毒しよう



換気をしよう



うちで過ごそう



日本赤十字社 大阪赤十字病院

周産期専門医 清川 晶



日本産婦人科学会  
日本産婦人科医会  
日本産婦人科感染症学会

ワクチン接種後も、これまでと同様の感染予防策を続けましょう。